

「こうのとりの」3号機とISSを見よう!

星出宇宙飛行士が滞在中の国際宇宙ステーション(ISS)と大気圏再突入目前の「こうのとりの」3号機。条件がそろえば、太陽光の反射を受けてこのふたつをほぼ同時に地上から肉眼で見られます。

目視予想情報

「こうのとりの」はISSより少し前を飛んでいるのが見えるはず。予報の5分前くらいからじっと観察してみよう!



「こうのとりの」とISSがいつ、どの方角に見えるのかという情報です。**9月14日(金) 午前4時29分頃、地平線からの角度15度~32度付近の南東方向の上空**を通る様子が関東地方を中心に全国的に見られます。



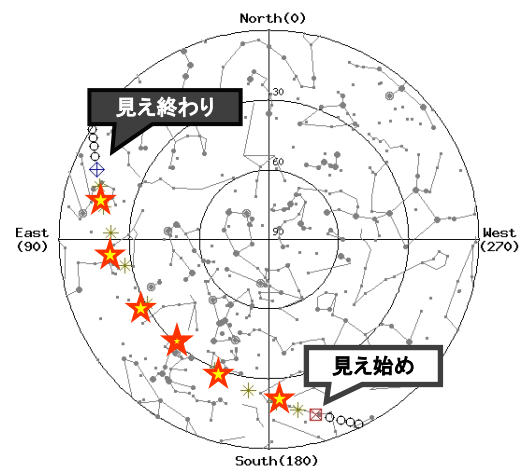
記号の見方

ISSの通り道

◎	45度<最大仰角		ISSに太陽光が当たっている
○	30度<最大仰角<45度		
△	10度<最大仰角<30度		ISSに太陽光が当たっていない
×	最大仰角<10度		

東京での見え方の例

イベント	時刻[JST]	方位角(度)	仰角(度)
見え始め	04:28:30	195(南南西)	12
仰角が最大するとき★	04:31:00	139(南東)	32
見え終わり	04:34:00	68(東北東)	11



ISSと「こうのとりの」の探し方と注意事項

雲があると遮られて見ることはできません。また、仰角が低いと周辺のビルや木等に隠されてしまうので、なるべく周囲が開かれたところで観察しましょう。なかなか見つからない場合は、最大仰角時(最も高度が高くなる時)にターゲットを絞って探してみましょう。

太陽電池パドルが4枚取り付けられた「きぼう」/ISSはとても明るいので、広く開けた場所なら、最大仰角20度くらいでも探しやすくなっています。-1等星ぐらいの光の点が飛行機のようにすーっと移動していくイメージで見えます。「こうのとりの」はもう少し暗いのですが、円筒型のため光の強さが変わって、強く輝いて見える場合があります。

ISSの軌道の予測は定期的に更新されるため、見える時間も1分程度、予測値が変更されることがあります。事前に東西南北方向を確認しておき、どのあたりを通るのかイメージをつかんでおくといでしょう。飛行機の場合は点滅したり、赤や青のランプを持ちますので区別は付くと思います。

必ず直前に観測地ごとの詳細情報を「きぼうを見よう」 <http://iss.sfo.jaxa.jp/index.html> でご確認ください。